

滋賀県議会だより



No.105

編集・発行／滋賀県議会

11月定例会議の概要

11月27日～12月21日の25日間

11月定例会議では、新型コロナウイルス感染症への対応として、PCR検査体制の拡充や県立施設におけるトイレ改修などの衛生環境の改善などのほか、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催延期にかかる経費など、総額48億2,865万円を追加する「令和2年度滋賀県一般会計補正予算(第10号)」や、ひとり親世帯への臨時特別給付金の年内の再支給に伴う経費、新型コロナウイルスワクチンの円滑な流通体制と専門的な相談体制を確保する経費など、総額約1億

8,624万円を追加する「令和2年度滋賀県一般会計補正予算(第11号)」など、知事提出議案46件と議員提出議案6件が上程されました。

各委員会では、付託された各議案、請願その他所管事項について審議等を行い、新型コロナウイルス感染症については、年末年始においても医療提供体制が維持されることをしっかりと広報すること、またコロナ禍の子どもたちを支援するためスクールカウンセラー等やスクールソーシャルワーカーの配置拡充を行う事業について、人材の確保および育成に努め、更なる体制の充実を図りたい等の意見が出されました。

これらの審議の結果、意見書案3件を否決したほか、いずれも原案のとおり可決しました。また9月定例会議において継続審議とされていた令和元年度滋賀県歳入歳出決算の認定等を求めることについて、認定または可決しました。

11月定例会議における 質疑・一般質問から

医療・感染症対策

問 新型コロナウイルス感染症の外来受診・検査体制、入院体制の整備状況、またインフルエンザ流行のピーク時期に向けた体制について伺います。

答 外来受診・検査については、迅速な診断・治療につなげられるよう、発熱患者等の診療や検査を行う「診療・検査医療機関」として、地域の診療所を中心に、10月末までに453か所を指定し、その結果、ピーク時には1日当たり3465件の検査対応能力を見込んでいます。11月以降も追加指定を行い、「診療・検査医療機関」の数としては一定確保できたと考えています。防護具の配布や保健所による相談対応などを通じ、必要な診療・検査が確実に行われるよう努めてまいります。

入院医療体制については、12月1日現在、病床は16病院213床、ホテルは2か所271室を確保しており、重症化リスクの高い方は入院、それ以外で軽症・無症状の方は、原則宿泊施設での療養としています。

感染のピーク時には、病床280床、ホテル420室が必要と見込んでおり、12月1日現在では、145床の空床、

255室の空室があり、逼迫した状況ではありませんが、ピーク時を見据え、最大病床の確保に向け、現在複数のホテルを候補として検討しています。



新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病床の様子(滋賀県立総合病院)

文化

問 「滋賀をみんなの美術館に」というコンセプトの下、滋賀の美の魅力を発信するために今後どのように展開するのか伺います。

答 コロナ禍にあつて、文化芸術や美に対する渴望の高まりや、地域の自然や文化的資源の価値を再評価する動きが見られる中、来年6月には近代美術館を約4年ぶりに再開館します。まさに、滋賀の美の魅力を国内外に発信する絶好の機会であり、「滋賀をみんなの美術館に」の具現化に向け、琵琶湖や自然美、建築や伝統工芸などの生活文

化の美、大切に守り伝えられてきた文化財、アール・ブリュットや現代美術など、過去から現在に連なる多様な美の魅力を強力に発信してまいります。

具体的には、近代美術館に設ける予定のプラットフォーラムのもと、関係者や関係施設のネットワークを構築し、全体の発信力を高めながら、戦略的な取組を展開します。新館長のもと、展覧会改革やアートの体験の多様化など、従来の発想を超えた事業展開を図り、感動や新たな学びに出会えるアートのスポットとして、また、滋賀の美の拠点・入り口として再生を目指してまいります。

休館中の琵琶湖文化館については、全国有数の文化財保有県である本県ならではの特色ある博物館としてリスタートが切れるよう準備を進めてまいります。

美の魅力に触れることで、感動や癒しにつながり、人々に元気をもたらすとともに、地域の振興や経済の活性化にも資する取組を、思いを新たに展開してまいります。



琵琶湖文化館

観光・産業振興

問 GOTOトラベル、イートの効果や感染拡大における国の対応についての受け止め、また、更なる感染拡大の場合の対応について伺います。

答 観光庁によると全国でのGOTOトラベルの利用率実績は10月末時点で約4千万人泊です。9月の宿泊旅行統計では、本県は対前年比で35.6%の減であり、京都府の58.8%減、大阪府の67.4%減を超える回復です。事業者からは、予約で満室となり前年同月の実績を超えるというお声もある一方で、「団体旅行や宴会予約が戻らない」「平日はまだまだ空いている」などのお声があり、「今こそ滋賀を旅しよう!」などの効果が一定出ているものの、引き続き厳しい状況であると認識しています。

GOTOイートについては、10月20日から食事券が販売され、11月29日時点で紙クーポンが28億円、電子クーポンが約14億5千万円という販売状況です。

国の今回のGOTOキャンペーンの運用見直しは、更なる感染拡大防止に必要な措置であり、やむを得ないものと考えます。本県では、現時点ですぐに制限が必要とは考えておらず、感染対策を徹底した上での経済・社会・文化活動の両立が重要と認識していますが、今後、感染拡大が深刻な状況となってきた場合に

は、GOTOキャンペーンへの制限など迅速に対応してまいります。

学校教育

問 コロナ禍における学校生活の変容、特にいじめについての問題や対応、また子どもたちに対する心のケアについて伺います。

答 夏休みの短縮や学校行事の中止や縮小、さらには感染拡大防止のための様々な制約などから、児童生徒の心理的ストレスや不安は高まっていると考えています。現在把握している情報では、感染者や濃厚接触者、また医療従事者のご家族等、関係者に対する直接的ないじめの報告はありませんが、体調不良で休んだ児童生徒について「コロナで休んでいる」という発言や、悪口として「コロナ」という言葉を児童生徒が使ったことがあると聞いています。感染症への正しい理解と人権について指導を行い、こうした発言の際にも、その都度指導を行っています。

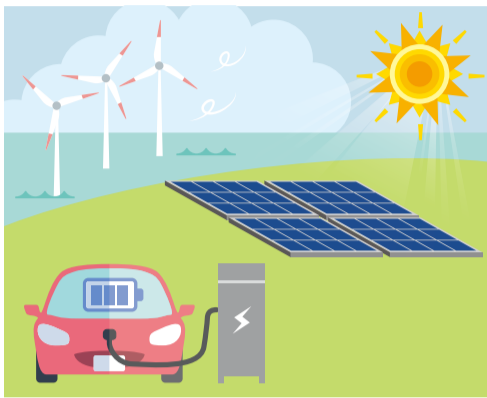
コロナ禍において子どもたちの心のケアは大変重要であり、学校全体で児童生徒の心身の状況把握を行うとともに、情報共有をし、児童生徒に寄り添った支援を行っています。こうした支援を行う上で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用は非常に有効であると認識しており、今回の補正予算でも配置時間数の拡充をお願いし

ています。引き続き、こうした皆様の協力を得ながら子どもたちのケアに努めてまいります。

環境政策

問 知事は令和2年の年初に2050年までに排出するCO₂を実質ゼロにし、そのための行動を起こすことについて「しがCO₂ネットゼロムーブメント」の宣言をされたが、社会全体にムーブメントを起こすための決意を伺います。

答 昨今、国内外で発生している大雨や熱波、大規模森林火災などは、今まさに世界が気候危機に直面しており、CO₂ネットゼロ社会への転換が急務と認識しています。CO₂ネットゼロの達成には、施策の加速化はもちろん、県民や事業者の主体的な取組、国全体の仕組み作りが不可欠であり、社会構造の変革を促す観点から、ムーブメントの創出が必須と考えます。私達の暮らしを映す鏡とも



表現される琵琶湖では、2年連続で全層循環が確認されておらず、これは気候変動が私達の暮らしの在り方に対し警鐘を鳴らすサインだと認識しています。これを危機感として発信、共有、浸透させ、CO₂ネットゼロに向けてみんなで取り組むべきことを示し、各主体の取組を支援することでムーブメントを推し進めてまいります。

行財政

問 来年度予算編成についての知事の方針と行財政改革の決意を伺います。

答 県民サービスを安定的に提供するとともに、滋賀の将来のために必要な投資を継続して行うべく、投資は、まずは、行政経営方針で定めた令和4年度までの取組を着実に実行することが肝要と考えます。その上で、財政収支改善に向け、ネーミングライツへの取組も含め、歳入確保のあらゆる可能性を検討し、推進してまいります。歳出面では、職員のコスト意識向上に努め、「最少の経費で最大の効果」となるよう、必要な見直し・改善を不断に行うなど、全庁一丸となって取り組んでまいります。

来年度予算編成でも、県税収入や地方財政対策の状況を見極め、感染症への対応や県経済の底上げにつながる施策を盛り込むなど、限られた財源の中で未来志向の予算とな

るよう取り組んでまいります。

福祉政策

問 コロナ禍で少子化の一層の深刻化が懸念されています。今後の子育て世代の支援について伺います。

答 コロナ禍で多くの方が子育てに関する不安の声をお聞きし、全国知事会次世代育成支援対策プロジェクトチームのリーダー県として、まずはこうした実情を国へ伝えるとともに、手当の拡充や子どもの医療費に関する全国一律の助成制度の創設について、関係省庁に対し強く要望しました。また、県として市町が行う様々な子育て支援の取組に対しても支援を行っており、県独自には、多子世帯への保育に係る負担軽減や、自治振興交付金の提案事業による若者の県内定着や移住等への支援を行っています。

さらに、10月に策定した「すまいる・あくしよん」をもっと子どもたちにも知ってもらい、市町や企業などとも連携し、様々な角度から関係する事業を洗い出し、全庁あげての取組とすることでコロナ禍でも子どもたちが笑顔で生き生きと過ごせる滋賀を築き、子育て世帯を支援してまいります。



※1 「全層循環」・・・湖の表層の水温が低下し、湖水の混合が湖底まで進むことで、表層から底層まで水温と溶存酸素濃度が一様となること。
※2 「ネーミングライツ」・・・県有施設や県が実施するイベント等に企業名や商品名、サービス名等の「愛称」を付与する権利。
※3 「地方財政対策」・・・国における翌年度の地方財政全体の収支算定の際に、地方が安定的な財政運営を行うために必要となる一般財源総額と過不足があった場合、それを均衡させるための財源対策。
※4 「すまいる・あくしよん」・・・コロナ禍において3万人を超える子どもたちの声を元に策定した、子どもの笑顔を増やすための行動様式。未来につながる7つの指標を設けている。

11月定例会議で審議した主な議案

議案番号	件名	結果
(知事提出) 議第136号～ 議第141号	令和元年度滋賀県一般会計および各特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて ほか5件	認定
議第151号	令和元年度滋賀県モーターボート競走事業会計未処分利益剰余金の処分につき議決を求めることについて	可決
議第153号～ 議第160号	令和2年度滋賀県一般会計補正予算(第9号) ほか7件	可決
議第161号～ 議第163号	滋賀県特別職の職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例案 ほか2件	可決
議第164号～ 議第167号	令和2年度滋賀県一般会計補正予算(第10号) ほか3件	可決
議第168号～ 議第177号	滋賀県新型コロナウイルス感染症対策基金条例案 ほか9件	可決
議第178号～ 議第197号	契約の変更につき議決を求めることについて(草津用水2期地区常盤用水路(その1)工事) ほか19件	可決
議第198号	令和2年度滋賀県一般会計補正予算(第11号)	可決

11月定例会議で審議した決議・意見書

番号	件名	結果
決議第1号	天皇陛下に奉呈する賀詞案	可決
決議第2号	皇嗣殿下に奉呈する賀詞案	可決
意見書第21号	日本学術会議会員推薦者任命拒否の撤回を求める意見書案	否決
意見書第22号	後期高齢者医療制度における窓口2割負担の中止を求める意見書案	否決
意見書第23号	刑事訴訟法の再審手続に関する規定の改正を求める意見書案	否決
意見書第24号	令和3年度障害福祉サービス等報酬改定における障害福祉人材の処遇改善を求める意見書案	可決

議会からのお知らせ

●滋賀県議会ホームページ、Twitter(ツイッター)

本会議や委員会の開催情報、議会の仕組み、議員の紹介、会議録など、県議会の最新の情報を随時掲載しています。また、本会議の様子はライブ中継と録画配信もしています。(※スマートフォン等でも御覧いただけます。)

滋賀県議会ホームページ <https://www.shigaken-gikai.jp/>

滋賀県議会ツイッター (アカウント名 @shigakengikai)



この印刷物は古紙パルプを配合しています